

「神様の招き」～人生 4 大問題の解決～

マタイによる福音書 11 章 28～30 節

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

2013 年の連合聖会は、柘植不知人師回心 100 年を記念して開かれました。◎列王記第一 17 章には預言者エリヤ（「私の神はヤハウエ」の意）の働きが記されています。そして冒頭のみ言葉を主題成句に「神の招き」との主題の許に 8 回の幸いな聖会を持たれました。私もその席に加えて頂きに恵みに与りました。今朝聖会に出席出来なかった方々もおられますのでその恵みを共に味わいたいと願ってこの所に導かれました。

第一の神様の招き。「休み」を与えられるのです。即ちあらゆる悩み、問題から解放される恵みなのです。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(28)。

私たちは「重荷を負って苦労している」のです。そのために毎日、四苦八苦しているのです。私は悩みも苦しみも何もありませんという人はいないと思います。また私たちの現実を誰も知ってくれない、理解してくれないと思って悲しい、辛い思いをしておられません。しかし、神様は一人一人の悩み、苦しみを知って「私の許にきなさい」と招いていて下さるのです。

柘植不知人先生は「人生 4 大問題の解決」というトラクトを出されました。それは第一に「生活の問題」、第二に「罪の問題」、第三に「病の問題」、第四に「死の問題」と語られました。

第二の神様の招き。「魂に休みが与えられる」事です。魂に平安を与えられることです。

「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」(29)。

イエス・キリスト様は「柔和」で「謙遜」な御方です。私たち人間はアダムとエバがへびに誘惑されて「神のようになる」との誘いに負けて「禁断の木の实」を取って食べ、罪を犯したように、何時も高ぶり易く、傲慢になりやすいのです。また自分を神のような存在に置き、自分をすぐれた者として他の人を見下してしまい易い者です。しかしイエス・キリスト様は神様であられたにも拘わらず、神様の御位を捨てて人となって下さり、あらゆる苦しみを受けられ、十字架の死に至るまでとことん神様に従われたのです。そして私たちの罪の責任を一心に引き受けて下さって神様から裁かれ、私たちに罪の赦しの道を開いて頂いたのです。その恵みによって私たちは救われて神様の恵みに

生かされているのです。私たちはイエス・キリスト様に倣い、謙って神様に信頼していく時、真実に「魂に平安が与えられる」のです。

第三に、イエス・キリスト様が重荷を背負って下さる故に「くびきは負いやすく、荷は軽い」のです。

「主は言われた『わたし自身が一緒に行くであろう。そしてあなたに安息を与えるであろう』。」(出エジプト記 3 3 章 1 4 節)。マタイ 1 4 章には、主イエス様に強いられてガリラヤ湖に漕ぎ出した弟子たちが、逆風に襲われ、大波に悩み、恐怖のどん底に陥ったこと。山に登りひとりで祈っておられたイエス様が、真夜中に弟子たちの許に湖上を歩いて近づき、御声をかけられたこと。ペテロが水の上を歩いてイエス様の許に行こうとした時、強い風に気付き、怖くなって沈みそうになって叫ぶと、主は直ちに御手を伸べ、彼を引き上げられたこと。イエスが舟に乗り込まれると風は風ぎ、弟子たちが信仰の告白をしたこと、が記されています。

この弟子たちの乗っている舟が風と波に悩む姿、かつての漁師の経験を生かして切り抜けようとしても、どうすることもできない現実。これは「教会」或いは「信仰者」の生き様として捉えることが出来るし、また私たちの周りに起こっている様々な問題の現実として考えることも可能かと思います。目的を持って出発したものの、現実にかかる諸問題、様々な人間関係、内外に山積する数々の難問に悩みながら、何とか乗り越えようと尽力しても、どうすることも出来ず、お手上げ状態に困窮している姿そのものを見せられます。まさに悩める姿です。

この現実を直視しながら、お互いに御言葉から励ましを与えられたいと思います。

第1. あなたのために「祈っておられるイエス」！

勿論、イエス様はご自分のために神と交わり、働きに備えておられたことでしょうが、弟子たちの現実をも知って祈っておられたことも事実でしょう。かつてペテロに「わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」と語られたイエス様です（＊）。そのお方は、今も神の傍らで一人一人を覚えて執り成しの祈りをされていて下さり（＊）、また、聖霊も呻き、執り成していて下さるのです（＊）。その執り成しの中に支えられていることを覚えたいものです。

第2. ご自分の方から「近づいて語りかけて下さるイエス」！

悩める者の側に近づき、御声をかけて慰め、力づけ、勇気を与えて下さる御方です。「しっかりしなさい。安心しなさい。勇気を出しなさい」「わたしだ。わたしは有って有る者だ。わたしが救い主だ。わたしが共にいるのだ」「恐れることはない」と。このイエス様のご臨在とその言葉は何と力強いことでしょう。悩んでいる時の慰めと力になるのは、「神共にいます」（＊）との信仰と聖書のお言葉なのです。

第3. おぼれる者の手を「捉え、引き上げて下さるイエス」！

イエス様を見失い、現実ばかりに心奪われ、沈みかけている者にも愛の手を差し伸べ

て救い上げ、共に歩んで下さるのです。弱い自分の現実に目覚め、「主よ、助けて下さい」と叫び続けたい。そして主が支え、救い出して下さるお方であることを味わいたい。主の生ける現実に直面する時、「本当に、あなたは神の子です」と信仰の確信に至り、更に深められていくのです。

さて、このようなイエス様の愛に捉えられた教会と信仰者である私たちは、真実にお互いのために祈り合える存在でありたい。また悩める人に近づき、その傍らに共にいる者であらせていただきたい。そして御言葉をもって慰め励まし合っていく関係を更に深められ、現に沈みかけている者にも愛の手を伸べていく群れとされたい。その交わりを通して更に、信仰の確信と成長に与らせていただけると信じます。